

毎年の洗礼日を記念して

教皇フランシスコメッセージより

「皆さんのうち、どれだけの人が自分の洗礼日を覚えているでしょうか？」と教皇は、バチカンのサンピエトロ広場に集まった人々に問い掛けた。

それに応えて、手を挙げる人は比較的少なかった。

「私たちの受洗日は私たちの教会での誕生日です」と教皇は指摘した。

「今日、家に帰ったら、皆さんの受洗日を真剣に調べてみてください。

そうすれば、皆さんはその記念日を祝い、このたまものを主に感謝できるようになります」

司牧者も信者も教会の母性の下に 教皇は当日の講話では、母としての教会について語り、その中で教皇はほとんど、イタリア語で母親を指す口語体の言葉「マンマ」を使った。

「人が教会に所属しているのは、会社や政党、または他の組織に入っているようなことではありません」と教皇は語った。

「その絆はとても大切です。ちょうど誰かと自分の母親との間にある絆のように。

教会は本当にキリスト者の母だからです」

「良い母は子どもたちの自立を助けます。そして、母鳥の翼の下のひよこのように、いつまでも母親の保護の下に居心地良くとどまらないようにします」と教皇は指摘する。

「教会は良い母親のように同じことをします。

私たちの成長に寄り添い、キリスト者の生活に道筋を示す光である神のことばを伝え、秘跡を授けます」 「私たちは人が自分の母親を愛しているように、教会を愛しているでしょうか？また同時に、教会の欠点を知るすべを知っているでしょうか？」と教皇は問い掛ける。

「どんな母親にも欠点があります。誰にでもみんなあることです。でも私たちは母親の欠点について話そうとしても、かばいます。母親を愛しているからです」

「教会にも欠点があります」と教皇は続けた。

「私は教会を、自分の母親を愛するようにあいしているでしょうか？私たちは教会がもっと美しく、もっと真正に、もっと主に似た者になれるように手助けしているでしょうか？」

普通の母親の子どもたちと同じように、教会のメンバーも神の前では平等だと教皇は語った。

「私たちは全員、司牧者も信者も、教会の母性の下に生きています」

「時々こんな言葉を耳にします。『私は神を信じていますが、教会は信じていません』」と教皇は語った。

「でも教会は司祭たちだけではありません。私たち全員が教会なのです。ですから、あなたが神を信じているが教会は信じていないと言うなら、あなたは自分自身を信じていないと言っていることになるのです。これは矛盾しています」